

全天候対応スタジアムについて

1 全天候対応スタジアムの事例

			
名 称	豊田スタジアム	大分銀行ドーム	ノエビアスタジアム神戸
収容人数	45,000席	40,000席	30,132席
整備費 (本体)	340億円 ※公園整備費含む	251億円	230億円
特 徴	・開閉式可動屋根	・サッカー、ラグビー等 にも利用可能な陸上競技場 ・開閉式可動屋根	・開閉式可動屋根

2 全天候対応スタジアムのメリット・デメリット

メリット	デメリット
・<u>天候に左右されず</u>に試合開催が可能 ・<u>快適</u>な観戦環境	・屋根のないスタジアムに比べ<u>建設費が高額</u> ・可動屋根付きの場合、建設費は<u>プラス40億円</u> ※富山経済同友会の試算 ・可動式屋根部分の<u>修繕費が高額</u>

3 Jリーグのピッチの基準

2016まで	2017から
ピッチは天然芝であり、原則として縦長105m 横幅68mであること	ピッチは <u>天然芝</u> 、もしくはJリーグが認めた <u>ハイブリット芝</u> であり、原則として縦長105m 横幅68mであること

【ハイブリット芝とは】

- ・人工芝（3％）＋天然芝（97％）の混合芝。
- ・天然芝が成長する過程で人工繊維と芝が絡み合い、総天然芝よりも強く地盤に根を張り、耐久性が増す仕組み

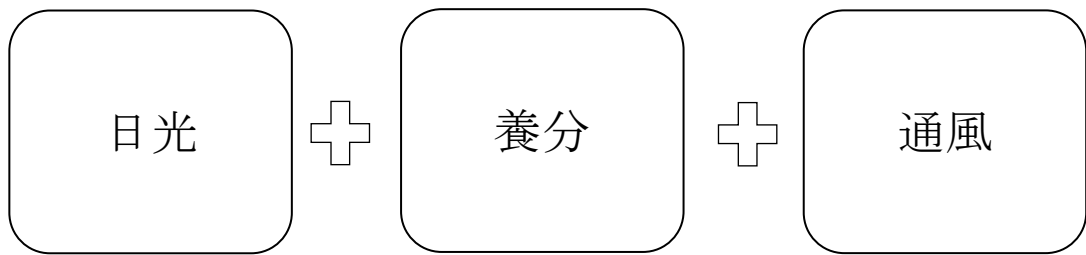
【ハイブリット芝の優れている点】

- ・ピッチの強度、耐久性、稼働率アップ

Ｊリーグ基準を満たすスタジアムが前提

- ピッチは、天然芝、もしくはＪリーグが認めたハイブリット芝
- ハイブリット芝であっても、構造やメンテナンスは天然芝と大きく変わらないため、対応できる競技や用途は限られてくる

4 天然芝の生育条件

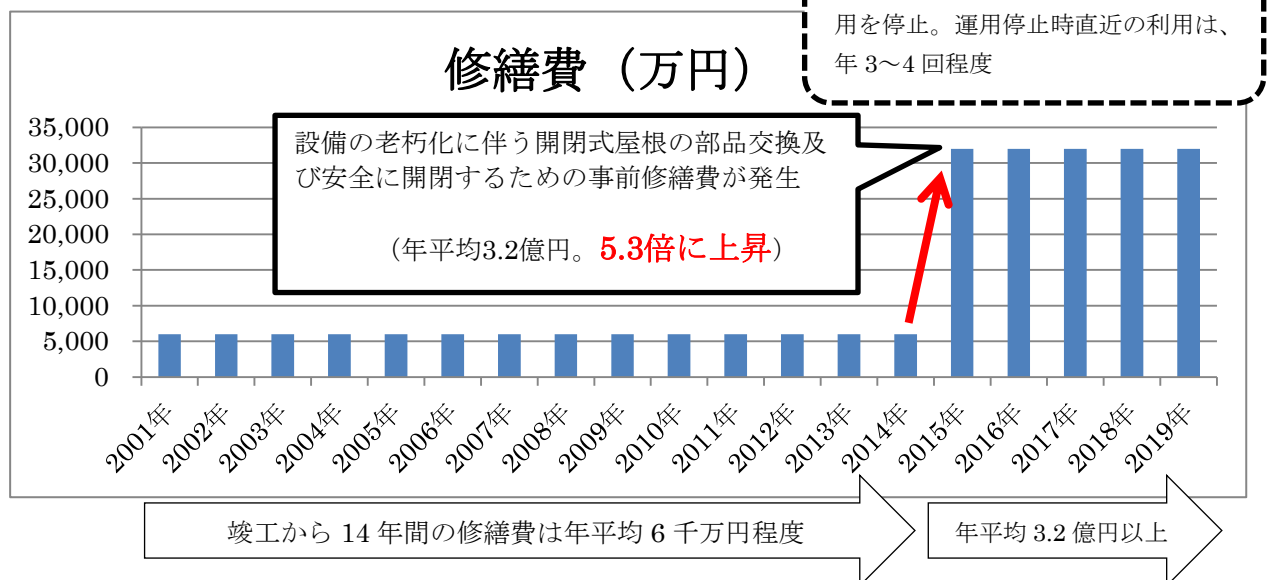


(天然芝の生育環境)

屋根なし > 開閉式 > ドーム型

※天然芝の生育には、十分な日光が欠かせない

5 豊田スタジアムの開閉式可動屋根の修繕費（事例）



まとめ

開閉式可動屋根を設置している豊田スタジアムでは、部品交換及び事前修繕に億単位の経費が発生することが判明し、その経費の削減を図るため開閉式屋根の運用を止めている。全天候型対応スタジアムの建設費は200億円超規模となることや、後年度の維持管理費が多額に及ぶことも想定されるため、こうした点も踏まえた上で、議論を進める必要がある。